

# ピカソ「泣く女」10億円落札

## 国内競売最高額

20世紀美術の巨匠、パブロ・ピカソ（1881〜1973年）の油彩「泣く女」

（39年）が2日、東京都渋谷区で競売に掛けられ、10億円という異例の高値で落札された。主催したアイアートは「国内を本拠

地とする競売会社が行った競売では史上最高額」としている。今回出品された作品は、愛人だった写真家ドラ・マ

ールをモデルとする連作の1点。縦55センチ、横38センチで、顔が大胆にデフォルメされ、頬を涙が伝う。落札者は明らかにされていない。

ナチスドイツによるスペイン北部、ゲルニカへの空爆に触発されて、ピカソが描いた代表作「ゲルニカ」（37年）にも、泣き叫ぶ女

性が描かれており、その延長上に位置付けられる。連作の中では、英国の「コート」の収蔵品が有名。ピカソの絵画では「アルジェの女たち」が2015年に約1億7900万ポンド（当時のレートで約215億ポンド）で落札された。



Lot.103

Pablo Picasso (パブロ・ピカソ)

10億円で落札されたピカソの油彩「泣く女」